

**研究名：** 新生児期の手術が極低出生体重児の長期予後に及ぼす影響

## 1. 研究の目的

極低出生体重児（VLBW）や超低出生体重児（ELBW）の出生数は増加傾向であり、またその救命率は改善傾向である。近年はその長期予後が問題とされるようになってきている。長期的な知的発達に関わる因子として、新生児期の手術に注目し、当院の症例を用いて検討し報告する。

## 2. 研究の方法

- ①研究対象: 2005年1月から2008年12月までに出生し、当センター新生児集中治療室(NICU)で治療された極および超低出生体重児の方
- ②研究方法: 後方視的研究

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報: 病歴, 検査データ, 3歳時の発達指数, 6歳時の知能指数, 等

## 4. 情報の公表

日本小児外科学会雑誌に論文として公開する予定です。

## 5. 研究実施機関

群馬県立小児医療センター

## 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

○照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

群馬県立小児医療センター外科 西 明  
住所：群馬県渋川市北橋町下箱田 779 番地  
電話：0279-52-3551

○研究責任者：

群馬県立小児医療センター外科 西 明